

例全例で造影 MRI 上不整に造影される領域にコリンもメチオニンも強い集積が認められた。治癒および脳壊死症例では造影 MRI で染まる領域へのコリン集積は 9 例中 7 例で欠如していたが、メチオニン集積は一部弱い残存が認められた。結語：脳腫瘍の放射線治療前後の  $^{11}\text{C}$ -メチオニン PET および  $^1\text{H}$ -MRS の関連を検討した。脳壊死例における MRS 上のコリン欠如所見は有用と考えられる。

## 12. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI の腫瘍シンチグラフィとしての使用経験

太田 正志 久山 順平 内田 佳孝  
宇野 公一 (千葉大・放)

副甲状腺腫瘍、乳腺腫瘍、悪性リンパ腫の 3 疾患に  $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI によるシンチグラフィを施行し、病変検出能を検討した。副甲状腺腫瘍は静注 20 分後と 2 時間後の 2 回、planar 像および SPECT 像を撮像した。早期 planar 像に後期像や SPECT 像を追加しても描出率に明らかな改善は認められなかった。また、描出率には病変の組織型よりも大きさの方がより影響していると思われた。乳腺腫瘍は静注早期の planar 像および SPECT 像を撮像した。描出率は原発巣については planar 像よりも SPECT 像の方が若干高く、腋窩リンパ節転移については planar 像、SPECT 像とも低かった。悪性リンパ腫は静注 20 分後と 2 時間後の 2 回、全身像と局所の SPECT 像 (または SPOT 像) を撮像した。病変の描出率はガリウムスキャンを上回るものではなく、特に再発症例で低い傾向があった。組織型については症例に偏りがあり、一定の傾向は見いだせなかった。

## 13. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -ECD で高集積を示した oligodendroglioma

池上 匡 板垣 麗子 小沢 幸彦  
高橋 延和 野沢 武夫 松原 升  
(横浜市大・放)

症例は 65 歳女性で、記憶力障害を主訴に当院神経内科を受診し、MR で左側頭葉に腫瘍を指摘され脳外科に転科した。神経内科では痴呆性疾患を疑われ ECD SPECT を施行され、1 週間後に脳外科にて術前検査として PAO SPECT を施行した。ECD を用いた脳血流測定で腫瘍部は高集積、HMPAO では低集積を

示した。術前 DSA では腫瘍内血管は豊富ではなかった。脳梗塞亜急性期に PAO で高集積となる贅沢灌流の時期にも、ECD では欠損像となることが多く、その理由として血流とエステラーゼ活性の両方の関与が示唆されている。脳 SPECT 検査において、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HMPAO ではまれに高集積を示す脳腫瘍を経験することがあるが、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -ECD についてはほとんど報告がなく興味深い症例と思われた。病理は悪性 oligoastrocytoma (oligodendroglioma + astrocytoma) であった。

## 14. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Tetrofosmin 運動負荷心筋シンチグラフィによる 3 枝病変検出における First pass 法の有用性

川本 雅美 岩澤 多恵  
(神奈川県循環器呼吸器病セ・放)  
遠山 慎一 (同・循)  
高橋 延和 池上 匡 松原 升  
(横浜市大・放)

1996 年 1 月より 1997 年 10 月までに冠動脈造影検査を施行した 60 症例 (0 枝病変 19, 1 枝病変 22, 2 枝病変 10, 3 枝病変 9) について、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Tetrofosmin 負荷心筋シンチグラフィを施行し、First pass 法の併用によって求められる負荷時および安静時の EF の変化 ( $\Delta\text{EF} = \text{負荷時 EF} - \text{安静時 EF}$ ) の有用性を検討した。 $\Delta\text{EF}$  と負荷時心筋 SPECT の Defect score の間には有意な負の相関が認められた。3 枝病変では「 $\Delta\text{EF} \leq -10\%$ 」となるものが 9 例中 8 例あり、0 枝および 1 枝病変、あるいは 2 枝病変に対して統計的に有意差が認められた。また、視覚的評価のみによる診断で、3 枝病変症例を 3 枝領域所見陽性と診断し得た症例が 33% であったのに対し、「 $\Delta\text{EF} \leq -10\%$ 」を 3 枝病変の診断基準として用いたところ、3 枝病変の検出率は 89% となり、著明な診断率の上昇が認められた。First pass 法による  $\Delta\text{EF}$  は虚血性心疾患症例において 3 枝病変検出に有用と思われた。

## 15. 低容量運動負荷を併用した ATP 負荷心筋シンチグラフィの有用性

鈴木 禎 今井 嘉門  
(埼玉県小原循環器病セ)

低容量運動負荷を併用した ATP 負荷心筋シンチグラフィにおいて検査中の血圧の推移を調べた。対象